

むくのきだより 7月号



令和5年6月30日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

子供の笑顔いっぱいの幼稚園 ～楽しい体験が子供を伸ばす～

園長 中村 美奈子

色水づくりやシャボン玉遊び、プールなど、水を使った遊びが気持ち良い季節となりました。暑さに負けず、汗をかきながら夢中で遊ぶ子供たち。「夏」を感じて、元気に遊べるように、教職員は毎朝麦茶を作ってこまめに水分補給をさせたり、テントを張って日陰をつくったり、熱中症予防に努めています。

7月7日は、七夕。「プリンセスになりたい」「うちゅうひこうしになれますように」・・・保育室は一人一人の願い事を書いた短冊や、色とりどりの笹飾りがきれいです。年少さくら組の短冊は、5年生に手伝ってもらって模様をつけました。紙に水を塗ったあとに、好きな絵の具を塗って、にじませ模様にしました。笹飾りは、のりを指先で上手につけ、折り紙をつなげました。年長ゆり組は、はさみを上手に使って折り紙に切り込みをたくさん入れ、つなげて笹飾りを作りました。また、5年生に手伝ってもらい、蛇腹に折った紙を組み合わせて笹飾りを作ったり、短冊に願い事を書いてもらったりしました。「自分でできた」ことも、手伝ってもらって「ちょっと難しいこともできた」ことも、子供たちは嬉しそうでした。そして、一緒に作った友達や5年生が、楽しそうにしていたり、「上手だね」と褒めてくれたりしたことが、とても嬉しそうでした。

「幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な体験を通して、この時期にふさわしい生活を営むために必要なことが培われる時期である」と幼稚園教育要領解説にあります。教師が「今日は、七夕飾りを作りますよ。」と一方的に教えたのではなく、子供たちが興味をもつように七夕という季節の行事があることを伝えることにより、子供たちは知っていることを話し、「飾りを作りたい！」と言いました。そして、実際に作ることで筆・絵の具・のり・セロハンテープ・はさみ等の道具の使い方の知識・技能を身に付けることにつなげます。このような体験が、次の遊びの中でものを作るときに活かされ、広がっていきます。

みなと科学館親子遠足のあと、体験してきたことが新しい遊びとなって広がりました。段ボールを使った空気砲の体験が楽しかった子供たち。年長ゆり組では、空気砲を上に向け、細かく切った紙を入れて、勢いよく飛ばして「打ち上げ花火」を作って遊んでいました。また、プラネタリウムに感動した子供たちは、黒い紙に星空を描くだけでなく、大型積み木を組み合わせて部屋を作り、天井に張ったり、懐中電灯で照らしたりして、「赤羽幼稚園プラネタリウム」を作っていました。親子で行ったみなと科学館の体験が楽しかったことが遊びに広がり、遊びで再現することで、発見や工夫、作り出す喜びにつながっていったのだと思います。

赤羽幼稚園では、これからも子供たちが「楽しい！」「嬉しい！」「やってみたい！」という楽しい体験ができるように計画しています。今月は、三田地区委員会の皆様や保護者の皆様のご協力を得て、赤羽こどもまつりを予定しています。大人も共に楽しむことで、子供たちの楽しさも増すと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

